

網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.89
2020.3

ノキシノブの乾燥対策

何とか耐え忍んでおります…

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

クいと丸まっている「ノキシノブ」

雪の上にいるにもかかわらず、じわりと汗が出てくるようなぽかぽか陽気のある日、見上げた木の幹からクルクルと丸まって出ているノキシノブを見つけました。春めいた気候にぴったりなカーリーヘアのようです。この葉は乾燥して縮こまっていますが、水分が十分だと平たく細長い葉になり違った印象に見えます。以前取り上げたシダ植物のオシャグジデンダの葉も乾燥のためにクルッと巻き上がっていたので「図鑑みたいな状態で載せてほしいのに！」という声が今回のノキシノブからも聞こえてきそうです。おまけに葉の裏に並ぶ胞子の集まりを星になぞらえた「ウラボシ」もすっかり内側にくるまれて見えない状態。今度は湿潤な時期に葉の開いた状態でお会いしよう精進します…。それにしても革質の葉で胞子をしっかりとガードしている姿は樹木の冬芽にもよく似ています。植物に限らず多くの生きものの「子孫を残す」というミッションが、厳しい環境の中でも適応しながら着実に行われていることに改めて気づかされた出会いとなりました。

What is
"Nokishinobu"?

「細長い葉のシダ」

ウラボシ科

体長：10～30cm 程

分布：北海道南部～沖縄

わら葺き屋根や軒下などによく生育するところから名づけられた。葉の裏の胞子の集まりがたくさん並び目のように見えることから「八目蘭（ヤツメラン）」と呼ばれることも。林内のやや暗い湿った木の幹や岩の上などに着生する。

(参考図書：「野外観察ブック-シダ植物」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



樹木が少なく雪も少ないので、回りの山より白く見える

網張から見える 山ノート

22 ページ目 ざるもりやま 箕森山

ざるもりやま
箕森山

標高：1541m

位置（網張VCから）：西南西

登山適期：6月～10月（秋田県道127号及び194号の開通時期に注意）

特色：隣の烏帽子岳（1477.5m）より標高が高い。山名は丸みを帯びた形から、それともアイヌ語の「サル」（湿原）が転じたのだろうか？

秋田駒ヶ岳から烏帽子岳や千沼ヶ原へ、足をのばす時に通過ポイントとしてかかせない山です。縦走する経路地は湯森山・熊見平・箕森山と続きますが、これらは古い火山で比較的緩やかな地形と山頂に火口が確認できないのが特徴です。中でも箕森山の火山形成年代は松山逆磁極期（258.1～77 万年前）とされており古株です。西岩手火山が70～30万年前、秋田駒ヶ岳が9～7万年前から活動を始めた事を思うと、壮年期のような落ち着きを感じられます。秋田駒ヶ岳からのルートは高低差がそれ程ないので、新旧の火山地形や植生の変化を感じながらハイキングのような感覚で歩けます。途中の熊見平には小規模な池塘湿原がみられ、夏にはニッコウキスゲが群落を作ります。箕森山の低木に着目すると、ハイマツにまぎれてミヤマネズやガンコウラン、ミヤマハンノキ、ナンゴクミネカエデなど森林限界に近いエリアにも意外と多様な植生が分布している事が分かります。



湯森山を下って望む箕森山、三角山、高倉山、一番奥は岩手山

八幡平地域のオオシラビソの南限

箕森山と湯森山の鞍部にある湿原、熊見平周辺が十和田八幡平国立公園内のオオシラビソの南限である。比較的新しい火山の秋田駒ヶ岳に自生しないのは、地形や土壌、気温、風、積雪量など様々な要因が考えられる。岩手山ではオオシラビソの群落が西から東へ少しずつ分布を増やしており、このエリアも遷移途上なのかもしれない。



アミハリ・バーズ Vol. 3 2

キバシリ

科名：キバシリ科
全長：約 14cm
生態：留鳥
分布：九州以北

野鳥の鳴き声を文字化して思っているのは、音楽の譜面を見てもその曲が頭の中で再生されないのに似たもどかしさです。無理を承知でキバシリのさえずりを記してみましょう。「ピチョ ピチョ ピイピイピイ チー チー リリリ・・・」系統としてはミソサザイに似て高音で、次第に早口になります。

地鳴きは「ツリリ ツリリ・・・」と繰り返しますが、残念ながら網張の森でこの声の主と出会うのは簡単ではありません。似たような体格と習性をもつゴジュウカラやコゲラに比べると、生息数はかなり少なめではないでしょうか。彼らと違ってキバシリは植物の種子を食べない昆虫食です。じつにつまみやすそうなピンセットのような嘴をしています。ダケカンバやスギなど昆虫が潜んでいそうな樹木に垂直にとまり、クモや虫の卵なども探してらせん状に登ります。木をすばしこく移動する「木走り」ですが、姿が似ているコゲラも以前はキバシリと呼ばれていたのだとか。

写真提供：岩手山地区バドミントンクラブ

1月19日 ★この時期しか歩けない！
冬の鞍掛山麓スノーシューウォーク



「登山道を全く使わずに鞍掛山の周りをぐるりと一周してみたい」という夢が実現。たきざわ自然情報センター開設 10 周年の記念行事として滝沢市や滝沢市山岳協会と協力して開催。子供 3 名含む総勢 52 名。夏は一面のササ藪でクマの徘徊している山麓や雪の急斜面といった難所もスノーシューを履いて全員無事に踏破しました。

いわて雪まつり
2月7～11日
★“網張の森” かんじき散策



日本伝統のかんじきを履いて雪深い森の中へ入ると昔の「マタギ」になった気分。沖縄や京都、大阪、静岡といった県外だけでなくタイ、香港、マレーシアといった外国からのお客さんも結晶の見えるサラサラの雪に大喜び。パークボランティアの作ったイグルーやソリ滑りも楽しみました。

3月1日 ★鎌倉森で雪山入門
(冬山登山体験)



国立公園内にあって登山道は無いが抜群の展望を誇る鎌倉森。積雪期に挑む登山者が急増しています。ビジターセンターでは森林管理署に入林届を出した上で冬山初心者向けの行事を開催し総勢 38 人が参加。自然を観察しながらスノーシューでの登降を学びました。「10 年くらい前から参加したいと思っていてようやく念願がかないました。」との感想も。

網張ビジターセンターだけで入手できる印刷物が完成!

絵はがき「アミハリ・バース」「岩手山八景」

どちらも 8 枚組 700 円 (ばら売り可 1 枚 100 円)



「アミハリ・バース」

網張で見られる野鳥たちがスタッフのオリジナルイラストで次々に登場。



「岩手山八景」
中山大太郎氏撮影



「網張の花」



4月7日



3月25日

フォトブック「網張の花」700 円 網張に咲く 182 種の花を網羅

モモンガのつぶやき

新型コロナ肺炎騒ぎの空気、あの時と似ています。ここで働き始めたのは東日本大震災直後、果たしてお客さんが来てくれるのかと不安の日々。それでも顔を出し「自然に癒される」と笑顔を見せてくる人がいました。

人間と自然の交差点にあるビジターセンターという職場で働いた 9 年間は私にとって幸せな時間でした。



ありがとうございました。(たくちゃん)

十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1月 1, 325人 ◆ 2月 1, 443人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 1月 -6.6℃ ◆ 2月 -5.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時